2021
秀作

第54回「おかねの作文」コンクール

家計簿から考えるお金の使い方

秋田県・秋田大学教育文化学部附属中学校　1年　榎　奏子

私は小学校の頃からお小遣い帳をつけています。毎月1日に学年かける100円をもらっていました。中学生になり、学年かける1,000円になりました。お小遣い帳を見ると、自分が何に多く使っているか、所持金はいくらかなどがすぐにわかります。でも、買い物をした後やお小遣いをもらった時に、すぐに記録しないことがあり、所持金とお小遣い帳の合計があわない時があります。50円足りなかったり、どこから湧いて出たのか、200円増えていたりすることがあります。大人になると、扱うお金が今よりずっと大きくなることをふと考えました。

私の母はびっくりする程、事細かに家計簿をつけています。どうしてそんなに几帳面に家計簿をつけるのか聞いてみると、

「まず、何にどれくらい使ったかをありのまま記録することがすべての原点。それをもとにお金の使い方や生活を見つめ直して初めて予算立てすることができるの。予算は立てるけど、予想しなかったことは必ず起きるもの。そんな時も落ち着いて対応できるのは家計簿のおかげ。それが生活の基本の衣食住がどんな時でも維持されることにつながるの。」

つまり、安心して生活するためには家計簿が必要不可欠ということだと思いました。

母に家計簿を見せてもらいました。エクセルの表には食費や住居費、教育費などの項目がありました。その中に「公共費」というものがありました。これは何のためのお金なのか母に聞いてみると、

「自分の家庭以外のために使うお金のことだよ。」

と教えてくれました。母は以前から「胆道閉鎖症の子どもを守る会」や日本赤十字社に寄付をしているそうです。最近ではストリートピアノの維持のための寄付をしたそうです。

© 金融広報中央委員会2021

近代日本経済の父といわれる渋沢栄一は、

「真に理財に長ずる人は、よく集むると同時によく散ずるようでなくてはならぬ。」[1)]

と言っています。この言葉の「よく散ずる」というのは、社会のためになる使い方をしなさいという意味です。私は社会の授業でＳＤＧｓを知り、貧困問題のことでできることは何かと考えるようになりました。公共費はこのようなことのために使うお金なのだと思いました。ユニセフの公式サイトを見ると、ビタミンＡ１年分は４円、栄養治療食は１袋約30円など、栄養不足の子どもたちを助けるために、募金の協力を呼びかけていました[2)]。そこに「あなたのご支援が、子どもたちに生きる力と希望を届けます。」とありました[3)]。これを見て、私もお小遣いから募金をしようと思いました。

家計簿について調べるまで、家計簿が生活においてどんな存在なのか知りませんでした。家計簿を正しくつけていくことで、安心してお金を使えます。お金の使い道を真剣に考えることは、どんな生活をしたいのかを考えることにつながるということを知りました。私は将来自分が家計簿をつける時には、細かく項目わけをしたいと思います。「どんな支出にも必ず意味があるの。」と母が言っていたからです。

渋沢栄一の言葉には続きがあります。

「よく散ずるという意味は、正当に支出するのであって、すなわちこれを善用することである。」

「金に対して戒(いまし)むべきは濫費(らんぴ)＊1であると同時に、注意すべきは吝嗇(りんしょく)＊2である。」[4)]

この言葉を心に留めてお金を使いたいです。

＊1　無駄遣い
＊2　金銭や品物を惜しんで出さないこと

(注)

１）４）渋沢栄一『論語と算盤』　KADOKAWA　2008年10月
２）公益財団法人　日本ユニセフ協会「栄養が足りず、成長が困難な子ども３人に１人。」
URL　https://www.unicef.or.jp/special/19win/
３）公益財団法人　日本ユニセフ協会「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」
URL　https://www.unicef.or.jp/cooperate/coop_monthly2.html

© 金融広報中央委員会2021